

被災「心のケア」福島に拠点

米同時テロの経験生かす

在米医師らNPO

東日本大震災で大きな被害を受けた福島県沿岸部の相双地域に、2001年9月の米同時テロをきっかけに在米日本人医師らが結成したNPO法人の支援で、新たな精神科医療の拠点が設立されることになった。NPO関係者は「米同時テロと同様、福島でも被災者の継続的な心のケアが大事。しっかり支援したい」と話している。



福島県立医大とジャムズネットはインターネットを通して会議を行い、連携を密にしている(7月23日、仲本医師提供)

NPOは、邦人医療支援ネットワーク「ジャムズネット」。米同時テロで精神的苦痛を受けた日本人が適切な診療を受けられない状況だったため、支援充実に目的に6年に結成された。

同ネットのメンバーで、外務省医務官の仲本光一医師(54)がボランティアとして被災地に赴いた際、福島県立医大(福島市)の丹羽真一教授と知り合い、相双地域の精神科のある病院が閉鎖され、心のケアをボランティア医師に頼らざるを得ない状況を知った。

相双地域は津波で大きな被害を受け、東京電力福島第一原発事故も被災者の心に重くのしかかる。早速支援を申し入れ、「米日日本人医師会」などに寄付を呼びかけたところ75万円(約5800万円)が集まった。寄付金は、丹羽教授らが相馬市に年内の開設を目指す「相馬広域こころのケアセ

ンター」の設置費の一部に充てられるという。仲本医師は、「今回の取り組みを第一歩に、支援の輪を広げていきたい」。丹羽ら。

教授は「精神科医療にとまらず、地域医療再生のネットワーク作りのきっかけになれば」と意気込んでい